

事業所職員向け

放課後等デイサービス自己評価表

事業所名：共生型放課後等デイサービスじゅげむ

公表日：2022年5月13日

		チェック項目	はい	どちらとも いいない	いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点など
環境・ 体制 整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	<input type="radio"/>			障害児と高齢者を合わせて登録定員25名、通い定員15名としている。当事業所は共生型放課後等デイサービス事業所としての機能を十分に発揮できるスペースを有しており、関係法令を遵守した適切な定員を設定している。
	2	職員の配置数は適切であるか	<input type="radio"/>			昼間は職員と利用者様との割合が3:1以上になるように配置している他、保育士を配置してサービスの質の向上に努めている。共生型サービス事業所として、適切な職員数を配置しつつ、子どもと高齢者のどちらかにケアが偏ったりおろそかになったりしないよう努めている。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	<input type="radio"/>			事業所内は全面バリアフリーとなっており、出入口、トイレ、浴室など段差なくスムーズな移動が可能となっている。また掃き出し窓を通じて居間から屋外へ出ることができる。
業務 改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか	<input type="radio"/>			毎月開催する定例会議のほか、必要に応じてカンファレンスを開催し、きづきや課題、改善策等を職員間で随時共有している。また併設事業所との定例会議を活用して、幅広い職員の参画に努めている。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	<input type="radio"/>			年に1回、保護者向け評価表を活用したアンケート調査を実施して保護者等の意向を確認している。その他、連絡ノートの活用や送迎時の会話を通じて保護者とのコミュニケーションを行っている。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	<input type="radio"/>			ホームページを通じて公開している。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	<input type="radio"/>			共生型サービス事業所として2か月ごとに運営推進会議を開催し、地域住民や行政職員等への活動報告及び意見聴取を行っている。また会議内容は報告書として取りまとめ、職員が確認できるよう施設内に掲示することで、情報共有と業務改善につなげている。

	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	○			虐待防止、身体拘束等の適正化、防災、感染対策、事故防止に関する職員研修を実施、職員の資質の向上に努めている。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	○			利用者本人及び保護者との面談を通じてアセスメントを実施、ニーズや課題を把握したうえで放課後等デイサービス計画を作成している。なお児童発達支援管理責任者は配置していないが、高齢者介護の提供に係る計画作成に関し経験のある者（介護支援専門員）が放課後等デイサービス計画作成を取りまとめている。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	○			標準化されたアセスメントツールを使用して、利用者の状況を把握している。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っているか	○			年間活動プログラムの作成にあたっては、事業所の全職員で案を持ち寄り、定例会議等で検討、取りまとめている。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	○			できることを少しずつ増やすことができるよう、無理のないプログラムを工夫している。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	○			平日は短時間でできること、休日等は時間を取ってできること、それらを意識した時間割を作成しサービスを提供している。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか	○			一人ひとりの状況に応じて、個別活動と集団活動を組み合わせた放課後等デイサービス計画の作成及びサービス提供を行っている。また共生型サービス事業所としての特性を活かし、障害児と高齢者などが交流できるような活動を行っている。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	○			毎日朝礼で情報を共有し、効果的な支援ができるように工夫している。
16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	○			日々、職員がその日の振り返りを行うとともに、気づいた点や改善点などは職員間の連絡ノートを活用して情報共有している。	

	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○			記録は必ず行うよう徹底している。また記録の電子化を進め、効率よく記録できるように努めている。さらに、法人内の別事業所の職員によって客観的な視点から定期的に記録状況を確認してもらうことで、正しく記録を取ることを徹底している。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	○			定期的なモニタリングを実施し、放課後等デイサービス計画の見直しを行っている。また利用者の状況に応じて、必要な場合は随時計画の見直し変更を行っている。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っているか	○			支援の内容が平面化してしまわないよう、複数の基本活動を組み合わせさせて立体的に支援している。
関係機関や保護者と	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	○			サービス担当者会議には利用者本人に直接関わる有資格者が参画している。また必要に応じて計画作成に携わる者が参画する。
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか	○			その日の出来事や様子などについて、送迎時に口頭で申し送りを行っている。その他、必要に応じて電話やメール等でも情報共有できしており、適切に対応できている。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか	○			医療的ケアが必要な利用者の受け入れ実績はないが、今後そのようなケースがある場合は、主治医等との連絡体制を整えて支援を行う。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	○			就学前に利用していた支援施設から文書や口頭による情報提供を受けることで、情報共有に努めている。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	○			現在のところ該当事例はないが、今後そのようなケースがある場合は、適切に情報を提供する。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	○			特別支援学校と連携し、支援に必要な助言や受けている。今後も利用者のケースに応じた専門機関と連携し、助言を受けていく。

の 連 携	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	○			工作イベントを企画し、近隣児童館や地域の子どもたち等との交流機会を提供している。コロナ禍で参加人数は少なかったが、子どもや高齢者と交流する機会を作ることができた。また今後は、地域でどういった活動があるのか情報収集を行っていきたい。
	27	(地域自立支援) 協議会等へ積極的に参加しているか	○			コロナ禍にあって外部の会合等への参加は見合わせているが、運営推進会議を通じて地域住民との交流や情報共有等に努めている。今後は感染状況を踏まえつつ積極的に参加していく予定である。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○			連絡ノートや送迎時の会話を通じて、保護者との情報共有及び共通理解に努めている。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	○			保護者からの要望に応じて、有資格者による支援を行っている。
保 護 者 へ の 説 明 責	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○			利用開始前に、書面及び口頭により十分な説明を行っており、説明の際も不明な点が無いか随時確認している。またサービス開始後も、必要に応じて随時説明を行っている。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○			保護者からの要望に応じて、子育て経験のある職員や有資格者が必要な助言や支援を行っている。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	○			同時期に2名以上の登録者が無かったため、保護者同士の交流機会を提供することがなかった。今後、機会があれば保護者間の連携を支援する活動に取り組みたい。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○			法人全体として苦情対応の体制を整備しており、当事業所へ直接言いづらい場合でも、他事業所を通じて相談することが可能になっている。また苦情相談方法に関して、利用開始前に書面及び口頭で説明している。苦情相談を受けた場合は、口頭及び文書で情報共有し、迅速に対応するよう努める。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	○			毎月広報誌を発行し、郵送したり窓口を設置したりすることで、活動内容の報告に努めている。

任 等	35	個人情報に十分注意しているか	○			全職員、入職時に書面及び口頭で個人情報の取扱いに関して確認するほか、職員が遵守すべきルールとして就業規則に明記している。利用者及び保護者に対しては、支援開始前に文書及び口頭で当法人での個人情報の取扱いについて説明するとともに、災害時や必要時には外部へ情報提供することがある点についても確認、同意を得るようにしている。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○			利用者本人に対しては、障害特性を理解したうえで、表面的な言葉だけにとらわれず、表情や身振り等から思いをくみ取るように心がけている。また保護者に対しては、事業所側から声をかけて困りごとがないか確認するように心がけている。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	○			工作イベントを企画し、近隣児童館や地域の子どもたち等との交流機会を提供している。今後、感染状況を踏まえつつ、可能な範囲で地域に開かれた行事等を実施するよう努める。
非 常 時 等 の 対 応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	○			緊急時及び感染症対策マニュアルを策定し、研修や訓練を通じて職員に周知している。保護者に対しても積極的に発信、周知していきたい。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○			毎月、当事業所での発生が想定される災害（火災、自然災害）に備えて、避難、応急手当、消火、通報訓練等を実施している。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	○			虐待防止に関する指針を策定するとともに、職員に対する研修を実施している。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	○			身体拘束の適正化に関する指針を策定し、指針に基づき対応している。やむを得ず身体拘束を行う場合は、身体拘束等適正化検討委員会において検討し、本人や保護者に事前に十分説明、了解を得たうえで実施するよう手順を定めている。

42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	○		現在のところ該当事例はないが、今後そのようなケースがある場合は、医師の指示に基づき対応する。
43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	○		小さい気づきでも積極的に提出してもらえよう職員によびかけている。また提出されたヒヤリハットは、職員がいつでも確認できる場所に掲示し、事業所内で情報共有している。また自事業所だけでなく、併設事業所ともヒヤリハットを共有し、事故の予防に努めている。